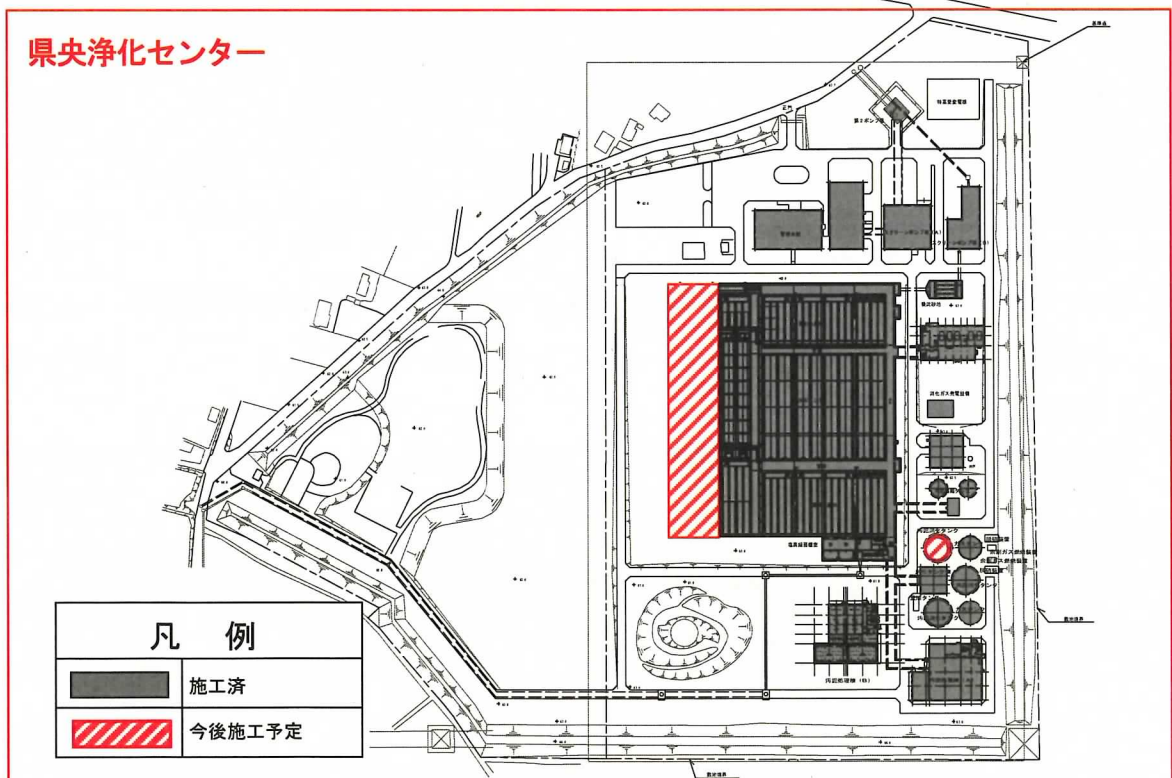
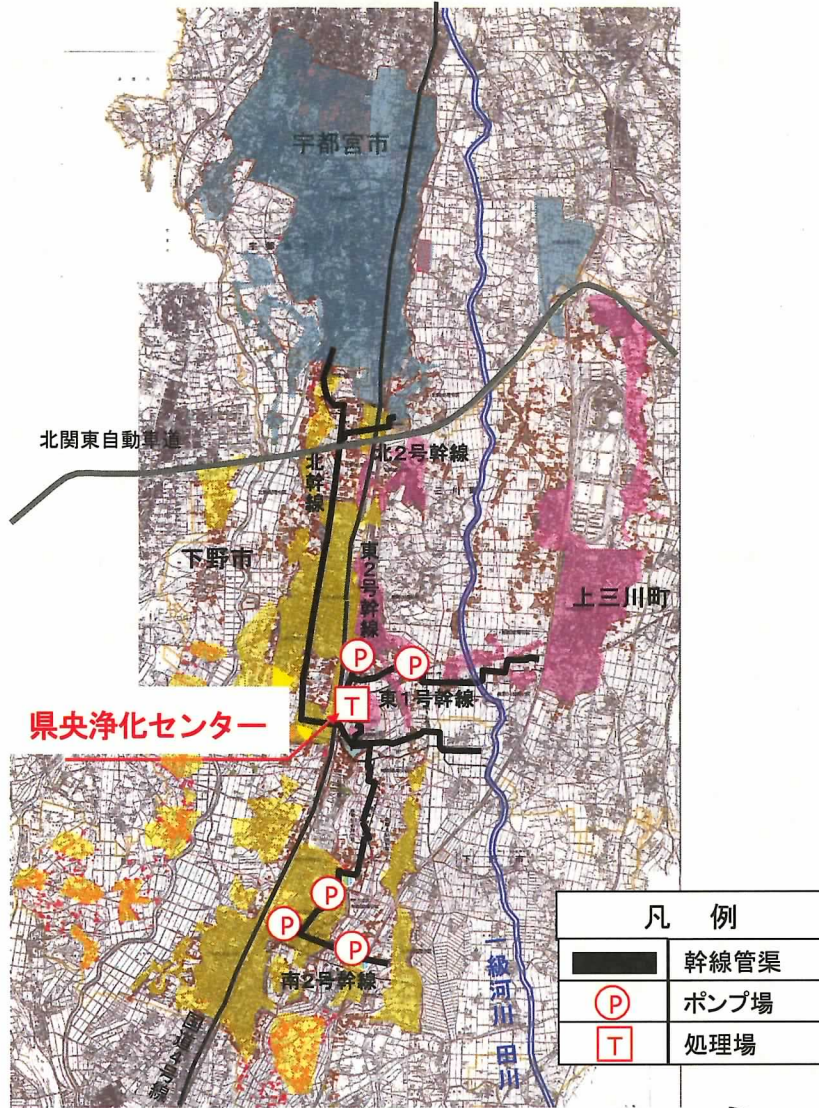


下水道事業の再評価概要書

() は、前回再評価時

下水道事業の再評価概要書			番 号	1
			事業主体	栃 木 県
事業名	流域下水道づくり事業		事業所管課	県土整備部 都市整備課
流域名及び 処理区名	鬼怒川上流流域下水道 中央処理区		事業箇所名	うつのみやし しもつけし かみのかわまち 宇都宮市、下野市、上三川町
計画処理面積 及び 計画処理人口	3,893 (3,754) ha 151,860 (165,100) 人		計画処理能力	81,100(111,000) m ³ /日 (日最大)
S56年度事業化		S55年度都市計画決定	S56年度用地着手	S56年度工事着手
事業期間	S56 ~ H38	事業 進 捗 状 況	基準年次：【平成29年度末時点】	
[うち用地補償費] 全体事業費	[20.5 億円] 379.4 (420.0) 億円		(うち用地補償費) 既投資事業費	[20.5 億円] 346.4 億円
事業概要				
宇都宮市の一部、下野市及び上三川町で構成される当地域は、東北本線、新4号国道、北関東自動車道の交通網の整備とともに都市化が進んできた。				
このため、都市の健全な発達及び公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質の保全に資することを目的として事業に着手し、供用を開始していることから、生活環境の改善や水質保全が図られてきているが、今後も引き続きその状態を保持していくものである。				
事業を巡る社会経済情勢の変化、事業計画の大幅な変更 等				
人口減少による事業計画の見直し				
事業の投資効果				
① 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】	
1) 事業全体	B/C= 2.2	5,882.5億円	2,709.7億円	
2) 残事業	B/C= 2.9	346.3億円	119.8億円	
② 事業の整備効果等				
整備を図ることにより、生活環境の改善と公共用水域の水質保全が図られる。				
事業の進捗状況等				
① 事業の進捗状況				
施設設置に伴う用地買収は全て完了している。				
幹線管渠、ポンプ場の整備はすべて完了している。				
処理場は、計画処理能力81,100[m ³ /日]に対し64,500[m ³ /日](80%)が完了している。				
② 今後の事業進捗の見込み				
今後の事業については、流域関連公共下水道の進捗を合わせながら計画的に整備が進められる見込みである。				
コスト縮減等				
① コスト縮減方策				
関連市町の整備の進捗に合わせ、適切な時期に施設整備を行うことにより、ライフサイクルコストを低減するよう努める				
② 代替案立案等の可能性				
用地は既に取得しており、幹線管渠やポンプ場は整備済であるので本計画が最適である。				
事業の対応方針 (案)		本計画で事業を継続する。		

事業箇所 (位置図・概要図)



上から見た県央浄化センター（平成 24 年 2 月撮影）

